

高柳地区コミュニティ通信 (新春増刊号)

第 84 号【発行 令和3年1月5日】
高柳地区コミュニティ振興協議会
〒945-1595
柏崎市高柳町岡野町 1849-1
TEL&FAX: 41-2234
E-mail:c-takayanagi@kashiwazaki-cc.net



年頭にあたり

高柳地区コミュニティ振興協議会
会長 田辺 正 通

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年はコミセンにおいても新型コロナウイルスの感染防止のために、様々な事業を中止や変更せざるを得ない一年でありました。そのために町民の皆様には多大なご不便をお掛けすることとなりました。

・新年賀詞交歓会について

毎年1月5日に開催しております「新年賀詞交歓会」については各界の方々から新年のご挨拶をいただいておりますが、本年は中止することにしました。

そこで、この紙面をもって皆様からご挨拶をいただくこととしました。

・高柳町観光協会の柏崎観光協会との統合

高柳町観光協会は昭和47年5月に地域資源を総合的な見地から有効に開発する機関として設立されました。

先人が残してくれた地形を生かした棚田やかやぶき集落は農村の原風景として観光客から高い評価をいただいております。また名勝貞観園、じょんのび村、こども自然王国等を拠点施設として高柳町民が一丸となって観光事業を展開してきました。

しかし、高柳町と西山町は既に柏崎市となったことから広域的な観光事業と多様なニーズに対応した情報発信を目指して高柳町観光協会と西山町観光協会は令和2年4月1日に柏崎観光協会と統合しました。

・高柳中学校の第五中学校との統合

令和2年4月1日に高柳中学校は第五中学校と統合し高柳町から10人の生徒が元気に第五中学校へ通学しています。

中学校がなくなることは学校を中心にして築かれていた住民同士の繋がりがなくなり、地域にとっては寂しい限りです。また、10人の生徒達は新しい学校でいじめられたりして辛い思いをしてはいないだろうか心配していましたが、学校からの便り(秋津の里)を拝見しますと「いろんな人と話ができて楽しい」

「友達が増えて、自分が明るくなった気がする」等と高柳町の生徒のコメントが紹介されていました。新しい学校での生活をそれぞれがエンジョイしていること

がうかがわれ安堵いたしました。新しい中学校でも夢と希望を持って進んでいく子供たちを心から応援しています。

・高柳保育園、高柳小学校に関する検討委員会の設置
中学校が統合し、次は保育園、小学校も無くなってしまわないかと心配しています。園児、児童数の推移をみると厳しい状況であることは間違いありません。

保育園と小学校がなくなれば地域の子育て環境や教育環境は確実に低下してしまい、若者の移住定住は難しくなり、地域はどんどん衰退してしまいます。

そこで地域と保育園、小学校の関係者による検討委員会を立ち上げ、保育園と小学校の存続のための活動を開始します。

・高柳コミセンのホームページ開設

コミセンでは近くホームページを開設するための準備を進めています。

「コミセンってどんなことをしているの? コミセンには何があるの?」などの疑問にお答えするとともに、今、行っている事業やサービスの内容を具体的にお知らせします。また、高柳地域の出来事や各種団体の活動等も紹介する予定です。

パソコンやスマートフォンをお持ちの方は是非、ご覧ください。開設日が決まりましたらご案内します。

・GoToコミュニティ

新型コロナウイルスで外出自粛を余儀なくされ、さらにいろいろな事業やイベントが中止になってしまいました。

そんなことから昨年は人と交わることの少ない一年でありました。外に出て人と話す。人と会うことが心身の健康維持に重要だということを改めて感ずる一年でありました。

新しい生活様式を実践しながらお互いに顔を合わせて、意見を交換するだけでもスムーズなコミュニケーションに繋がります。無理をする必要はありませんが可能な範囲で、お時間の都合をつけていただきながらコミセンの活動にご参加いただければと思います。

最後に新型コロナウイルスの一日も早い終息と皆様の益々のご発展、ご健勝を心からご祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

今年もよろしくお祈りいたします。





新年のご挨拶

柏崎市市議会議員
村田 幸多朗

「明けましておめでとうございます」と書いていいものか。きっとこの挨拶を読んでいただく頃には、日本中でコロナ感染が拡大しているのではと危惧しております。

日本でも3月～4月にはワクチン接種が始まる予定だと聞いておりますので、それまでは息苦しいマスク生活を我慢する年の初めになるのではと思っております。

昨年はコロナウイルスに振り回された1年間でした。そんな中で一番影響を受けたのは観光産業でした。高柳の「じょんのび村」は、正月明けを休館してのリニューアルオープンのタイミングでコロナ禍に見舞われ、高柳中学校の第五中学校との統合による閉校の集いをはじめ、恒例の歓送迎会、還暦祝いなどの同級会で予約満杯だったのがすべてキャンセルになり苦境に至ることになってしまい一時休館もありました。

休館前の会食イベントには地域住民の一割以上の方々が応援参加し、再開後は市内のグループが会食・宿泊で応援していただいております。

私も商工会・柏工OB会・鯖石郷議員の集いで3回宿泊させていただきました。

「高柳のじょんのび村が大変だ」と言う市長には、合併して15年「柏崎のじょんのび村」として再三申し上げ、「柏崎のじょんのび村」として取り組むと選挙公約（11の約束）にも書いていただきました。皆様にも大いに利用いただきたいと願っております。

昨年の活動を振り返ると、体協のトレッキングは町内巡り。ふるさとキラリ賞を受賞した『狐の夜祭り』は狐道の草刈りだけとなってしまいましたが、踊りの練習をした高柳小学校児童の発表会には、五中生徒有志の姿もあり今年の盛り上がりが楽しみです。

統合後の新第五中学校の体育祭は一体感に安心し、中学生人権作文の県優秀賞に門出の春日桜さんが選ばれたとのうれしいニュースもありました。

又、NPO 法人石黒邑の活性化の取り組みも大いに期待しておりますし、私にとっての一番は多くの方々の協力を得た山頂近くの黒姫山鶺鴒川神社の屋根・外壁補強工事の完工という三年越しの願いが叶えられ

たことであります。

多くの課題に直面する高柳地域ですが、無理をせず乗り越えていきましょう。

本年が皆様にとって健やかな一年である事をご祈念し、あいさついたします。



地域のためにできることを

高柳町地区連合会
会長 大倉 正大

新年明けましておめでとうございます。

皆様には健やかに新春を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

昨年、高柳中学校は73年の歴史と伝統を閉じ第五中学校と統合しました。

しかし、新型コロナの関係で本来なら町民の皆様と一同に集まり惜別の会を開く予定でしたが実施できませんでした。第五中学校との統合準備も同じ様に縮小された中で保護者、後援会関係者の限られた皆さまにご協力を頂き実施しました。関係された皆さまに深く感謝を申し上げます。

統合後の生徒は、各種イベントの先頭に立って元気に活躍してくれています。高柳の後援会として、これからも温かく見守って行きたいと思えます。また、地域の皆さまにご支援いただいた黒姫山山上鶺鴒川神社屋根の改修は完了し奉告祭を11月に実施しました。春になったら登山とご参拝をお願いします。

さて、本年度は、第一に新型コロナの終息を願い、私たち地域で貢献できることはきちんと守りたいと思えます。また、昨年度は各種行事を中止としてきましたが状況を踏まえて再開します。課題であります高柳小学校の旧高柳中学校への移転要望、高柳保育園の子ども人員減と存続、地域の高齢化に伴う維持管理の在り方等を含めて各集落の町内会長と連携して取り組んでまいります。どうかよろしく願いいたします。

最後に、皆さまのご健勝と各地域活動のご発展をご祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。





新年に寄せて

高柳町商工会
会長 関井 忠和

新年あけましておめでとうございます。

「令和」という新しい年号となり、早や三年目となりました。

昨年は「新型コロナウイルス感染症」が確認され、日本のみならず世界各地にまたたく間に感染拡大し、高柳町商工会においても、例年高柳町出身者を招聘し開催していた里帰り地域振興後援会をはじめ、地元有志の方々による、じょんのびギャラリーの開設なども感染拡大防止のため中止せざるを得ない事態となりました。

一時期落ち着いたかに見えた同感染症は緊急事態宣言の解除に伴い、人の流れの活発化により現在第3波ともいえる状況となり、一日の新規感染者が2千人を超える日も珍しくなくなりました。県内及び柏崎市内においても感染者が確認されており、ご家族及び関係者のことを思うと衷心よりお見舞いを申し上げます。

幸い高柳町においては昨年12月時点で感染者は確認されていませんが、新型コロナウイルス感染症は未だに収束の目途も立たず、商工業に携わる者にもその影響は多大なものとなっております。物流の停滞や取引先、お得意先との接触もままならない為、当高柳町商工会員の中にも苦慮している方も多く、地域住民の皆様にご不便、ご迷惑をお掛けしていることを商工会長として、大変心苦しく思っております。

商工会員はなにより地域住民の皆様との繋がりが強く、地域住民のご支援がなければ直ぐに立ち行かなくなる小規模な事業者がほとんどです。商工会では今後とも会員一丸となり、行政、関係団体と連携しながら、高柳地域活性化のために地域資源の活用による新産業の創造やSNS等のソーシャルメディアを利用した地域情報の発信、新型コロナウイルス感染拡大防止のガイドラインの遵守、普及に努めると共に地域の発展やそこに暮らす地域住民のために本年も粉骨砕身努力をしてみたいと思います。

高柳町商工会会員へ引き続きご指導、ご鞭撻を賜うようお願い申し上げますと共に、新型コロナウイルス感染症の一刻も早い収束とご家族のお健やかな一年を祈念し、新年のご挨拶といたします。



学びを止めない教育活動に、呼吸を整え（目標を見定めて）全集中

柏崎市立第五中学校
校長 柴野 太

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、穏やかな新年をお迎えのことと存じます。日頃から第五中学校の教育活動にご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

また、昨年は統合に関わり、地域の皆様から大きなお力添えをいただき、ありがとうございました。

4月に統合してから8か月余りが経ちましたが、お陰様で生徒たちは学習活動や生徒会活動、諸行事に主体的に取り組んでおります。新しい仲間づくりやそれぞれの地域文化の交流にも、互いを尊重しながら、新しい五中文化の創造に尽力しています。

さて、新型コロナウイルス感染症が全世界に広がり、これまでに経験したことのない未曾有の事態となっております。未だ収束に至らず、私たちの日常は様々な制約にさらされ、「新しい生活様式」の下で、これまでの当たり前が通用しない状況に直面しています。学校における様々な教育活動にも、制限、縮小、延期、中止等の判断をすることになり、生徒・教職員にとって試練が続きました。慣れない長期の休校や新しい生活様式に戸惑う中、気が付かないうちに心身のストレス、不調をため込んでしまう実態も否めません。安全・安心を第一に考えれば仕方がないことだと頭では分かっているけれども、見通しのもてない状況下では、やりきれない気持ちにもなりました。一方で、この危機を今までの教育活動を大きく見直す機会と捉えることもできます。何が生徒のためになるのか、最上位の目標は何かを考え、そこに「全集中」していかなければなりません。

生徒あっての学校です。4月下旬～5月上旬の臨時休校を終えた後、登校する生徒たちの笑顔を見て「あ～っ、やっぱり学校は生徒がいなくちゃ始まらない！」と心の底から思いました。だからこそ、このコロナ禍にあっても、生徒たちの様々な学びを止めることはできません。この経験が未来の糧になるように工夫、創造しながら教育活動に取り組んでいきたいと思っております。今後ともご支援・ご協力をお願いいたします。

皆様にとって良い年になりますようにご祈念申し上げます。





ふるさとを愛し、
たくましく生きる

柏崎市立高柳小学校
校長 泉 徹也

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。と言っても、今日は令和2年12月17日です。

「何となく 今年はいい事あるごとし 元日の晴れて風無し 石川啄木」

この短歌のように、晴れて風のない元日を迎えているのかなと思ひながら、この原稿を書いています。

さて、高柳小学校では、「ふるさとを愛し、たくましく生きる」をテーマに教育を進めています。これを進めていくには、私自身が高柳の事を知らなくてはなりません。これまで、たくさんの方からいろいろなことを教えていただいたり、連れて行っていただいたりしました。

「花坂の棚田」を潤す、山の中腹からこんこんと湧き出る冷たくて、美しい一升口（水穴口）の水。硫黄の香り漂う白倉の源泉と月女湯の源泉。それをポリタンクに汲み、自宅の浴槽に入れて、温泉気分を楽しんだりもしました。

高柳の豊富な地域資源・地域素材を子供たちにも五感を使って体験させ、それらを通してふるさとを愛する心が育ってくればと考えています。

昨年11月8日には、黒姫山上「鶴川神社」の屋根改修工事完工奉告祭が行われました。長年の風雪に耐えてきた社殿の老朽化により、足掛け3年で、改修工事を終え、無事にこの日を迎えることができたとのこと。黒姫山を何回も登り改修作業をされた方、木材を提供された方、資材を下から担いで運ばれた方等、多くの方々が携わり、改修工事が完工されたと聞いています。

この日、私も黒姫山に登り、奉告祭に参加させていただきました。そこには、大倉宮司様をはじめ、改修工事に携わられた方々が顔を揃えていらっしゃいました。どの方も、工事をやり遂げたという誇らしさと安堵感、にこやかな表情が印象的でした。いずれの方にも、ふるさとを愛する心が宿り、その心が改修工事を成し遂げさせたのではないかと考えています。

さて、令和3年はどのような年になるのでしょうか。今、グラウンドの積雪計は、100cmに迫ろうとしています。



今年もよろしく
お願ひします。

柏崎市立高柳保育園
園長 池田 靖子

新年明けましておめでとうございます。皆様には、希望に満ちた新年をおむかえのこととお慶び申し上げます。昨年は地域の皆様のお力添えにより、新型コロナウイルス感染にも負けず教育・養護を一体化した保育活動を進めて参りました。今年度も残り3か月となりましたが、どうぞ引き続き温かい見守りをしていただけると幸いです。

保育園児8人は、園内外の日々の教育、遊びを経験する中で子どもなりの自信と同時に自己発揮と自己抑制の調和も自然と生まれ、発達に応じて他児への理解やコミュニケーション力も培われてきました。この時期を迎えますと、年長児は入学に向け凛々しい表情を見せてくれます。年中児は年長児と同じことを一生懸命頑張っている、やる気あふれる表情を見せてくれます。未満児は健やかにのびのびと育ち、あどけなさを残しながらも遊びの天才ぶりを見せてくれています。保育園での集団生活は教えられて学ぶよりは、見て聞いて感じて体験して共感して成長し、毎日の積み重なる感情が子ども達を育てています。笑いあえる仲間、協力できる仲間、競争しあえる仲間がいるから頑張れるのだと思います。

私達は、これからの時代を担う子ども達が発達に必要な豊かな経験が得られるような環境構成を工夫し、常に子ども達の集団遊びの展開に留意していきます。

また、心身ともに健康で素晴らしい未来を作り出す質の高い教育・保育を行って参りたいと思っております。日々、子ども達の笑顔が弾け、園内外に元気・夢いっぱいを感じられる園になるよう職員一同、心を一つにして当たって参りたいと思ひます。

本年も何かと保護者の皆様をはじめ関係機関、関係者のご支援ご協力を賜る機会が多いかと存じますがどうか宜しくお願ひ申し上げます。

どうぞこの一年が皆様にとりまして素晴らしい年になりますように、そして新型コロナウイルス感染症の終息を願ひ明るい一年になりますようにご祈念申し上げます。本年も何卒宜しくお願ひ申し上げます。

【訂正とお詫び】

第83号の『鶴川神社竣工式』のなかで一部訂正箇所がありました。正しい記述は、次の通りです。

- ・延喜式→黒姫山略縁記
- ・黒姫神社→鶴川神社
- ・黒姫山→修復工事
- ・祝辞→祝詞

